

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

| 達成度（評価） | |
|---------|---------------|
| A | : 十分達成できている |
| B | : おおむね達成できている |
| C | : やや不十分である |
| D | : 不十分である |

| | |
|------------------|--|
| 学校名 | 武雄市立 橋小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価のアンケートでは、中間評価と最終評価にあまり大きな差はない。感染症対策のため、行事の見直しを行い目的や方法についてその都度知らせてきたので、学校の方針をよく理解していただいた結果であるとする。学級閉鎖に備えて、リモート授業にも対応したことが、家庭での自主学習の取組とICTの活用力アップにつながった。 志を高める教育として掲げている「ときわっ子体験活動」については、90%以上の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答している。しかし、今年度は十分な体験活動ができず、「体験活動を通して、郷土について学びを得た」とは言い難い。次年度は、校内研の方法を工夫し、真に郷土について学びを得たと実感できる体験活動を計画・実施したい。 |
| 2 学校教育目標 | 生きる力を身に付け、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ ときわっ子の育成 |
| 3 本年度の重点目標 | ア、確かな学力を育む教育活動の推進 イ、豊かな心を育む教育活動の推進 ウ、健やかな体を育む教育活動の推進 エ、特別支援教育活動の推進 オ、幼・保・小・中連携の推進 カ、時代のニーズに対応した教育の推進 キ、家庭・地域との連携強化 ク、働き方改革の推進 |

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|--------------------|---|---|---|-------------|--|--|--|---------|--|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| | | | | ●学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員による共通理解と共通実践 基礎学力を含む知識及び技能の定着に向けた分かりやすい授業実践。 思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業研究。 | <ul style="list-style-type: none"> 市販テストにおける「思考・判断・表現」の得点が、全国平均を上回る児童が国語82%以上、算数62%以上。 保護者アンケートの基礎学力向上の成果で肯定的な回答95%以上。 | <ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1 Vol.2」を踏まえ、定期的にチェックシートで授業を振り返り、ステップ2以上を目指す。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 市販テストにおける「思考・判断・表現」の得点が、全国平均を上回る児童が国語72.8%、算数63.9%で、算数は達成しているが、国語が伸びていない。 保護者アンケートの基礎学力向上の成果で肯定的な回答95%以上を達成できた。 |
| ●心の教育 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> 豊かな心についてのアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が85%以上(児童アンケートにて) | <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業の充実 人権週間「ときわの木(認め合う言葉集め)」に取り組む。 児童アンケートで、友達との関係について肯定的な回答した児童が85%以上。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 6月授業参観時にふれあい道徳実施。 12月の人権週間に「ときわの木(認め合う言葉集め)」に取り組む予定である。 児童アンケートでは、友達との関係について肯定的な回答した児童が90%で達成できた。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止について、教師の組織的対応ができたと回答する職員が、80%以上(教職員アンケート) | <ul style="list-style-type: none"> いじめに関するアンケートや学期1回のQUアンケートを実施し、児童の状況把握に努める。 毎月の児童支援連絡会で気になる事案等について共通理解を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 児童個々に応じた指導支援を全職員共通理解のもとに行っている。回答した職員91%を達成できた。 1月1回の児童支援連絡会では、全学級の担任が報告し、共通理解を図ることができた。月1回生活アンケートも実施している。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | <ul style="list-style-type: none"> 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 体験活動では、学年に応じた児童生徒に活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童93%で達成できたが、「とも」の回答が54%なので、上げていきたい。 体験活動では、学年に応じた児童生徒に活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組むことができ、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が92%で達成できている。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ◎体験活動を中心とした郷土について学ぶ体験活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ◎体験活動についてのアンケートで、郷土についての学びを得たと考える児童が90%以上。 | <ul style="list-style-type: none"> 生活科、総合的な学習の時間における体験活動についてのアンケートを実施し、児童の姿を考察する。 学期末に、教職員へのアンケートを実施する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 体験活動が自分のためになったと回答する児童が92%であった。 前期は多くの学年で地域人材を活用し、郷土について学ぶ体験活動や、授業を行うことができた。後期も引き続き活用し、児童の郷土についての学びを深めていく。 | | | | |
| ●健康・体づくり | <ul style="list-style-type: none"> 「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | <ul style="list-style-type: none"> 「健康に良い食事をしている」と考える児童80%以上(児童アンケート) 「好き嫌いをせず食べている」と回答した児童が80%以上。(児童アンケート) | <ul style="list-style-type: none"> 児童に食育標語を書かせ食に関する興味・関心をもたせることで、食事の重要性や感謝の気持ちを育む。 給食委員会の活動として、給食の月目標や季節や行事に関わる食材や栄養についての情報を発信していく。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 「健康に良い食事をしている」と回答した児童は59%、「だいたいしている」37%であり、96%が健康に良いと考えている。 朝食を食べている児童は97%、「好き嫌いをせずに食べている」児童は88%であり、食事の重要性を感じている児童が多い。 給食時間に食育標語を流すことで、食材や家族への感謝の気持ちをもつことができた。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ◎体育的行事や健康委員会による活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ◎体力テストで全国平均を上回った項目が70%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 健康委員会によるスポーツチャレンジの実施や外遊びの奨励。 体育的行事に合わせ、強化週間や旬間を設定し、児童が運動に意欲的に取り組めるようにする。 | C | <ul style="list-style-type: none"> 男女共に体力テストで全国平均を上回った項目が70%以上だった学年は1学年のみであった。全体では、50%の児童が70%を達成することができていた。 相撲大会に向けて、児童が意欲的に取り組むことができるよう、地域の方に指導をもらった。 | | | | |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ◎業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | <ul style="list-style-type: none"> ◎教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | <ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日を設定し、見直しをもった業務を行うようにする。 多忙化対策委員会を実施し、行事等の精選、校務分掌について状況把握をし検討する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 全職員の時間外在校等時間の平均36時間。 全員のタイムカード集計結果を知らせ、退勤時刻を意欲して業務を行うようにした。 時間外在校時間が月45時間を超える職員には、個別に声かけをし、改善を図った。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ◎学校行事や会議等の精選・効率化の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ◎職員会議のペーパーレス化による効率化を図り、20%の時間短縮を実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> 会議、行事等の内容について、教育効果を吟味し、教育活動の精選を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 職員会議資料の一部を除きペーパーレスで行い、印刷の手間を省く必要時に参照することができるようにした。 終了時刻を決めて時間短縮を意欲するようにしたが、時間超過した時もあった。 | | | | |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | | |
|----------------------|---|---|---|-------------|---|-------------|------|---------|-------|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ○特別支援教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ◎教員の専門性と意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ◎特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員が80%以上(研修後のアンケート) | <ul style="list-style-type: none"> 交流学級と連携を図り、教師の専門性を高めるための特別支援に関する研修会の実施。 ケース会議の実施、情報交換 | A | <ul style="list-style-type: none"> 8月に講師(本校s)を招いて研修会を開催し事例をもとに話し合い研修を深めた。 日々、職員間で児童理解を深めるための情報交換を心がけている。 | | | | |
| ○時代のニーズに対応した教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ICT活用の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ◎タブレットを活用した授業が「分かりやすい」と回答する児童80%以上。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科等の学習での積極的な活用を行い、教師のスキル向上、情報共有のための時間確保をする。 情報モラル教室を3～6年生を対象に行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用した授業が「分かりやすい」と回答する児童は99%。 夏季休業中に教職員の研修会を行い、端末の活用方法を紹介したり、情報共有をしたりした。 9月に外部講師を招いて、3～6年生に情報モラル教育を実施した。今後は楽楽に応じて、各学年で取り組むようにしたい。 | | | | |
| ○防災教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ◎防災教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ◎防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童80%以上。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行う。 定期的ほか、警報発令時に集団下校引率を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 地域の消防団と連携し、防災講座、水難避難訓練を実施し、児童の防災意識を高めた。自己を守る方法を学んだりすることができた。 「安全に気をつけている」と回答した児童が98%である。 | | | | |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|----------------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ |
|----------------|---|